

60度～南緯60度，東経80度～西経160度の緯経度 0.25 度
区画毎である。

今回作成した雪氷の分布図と NOAA が毎週発行する
北半球雪氷分布図を比較したところ 大まかな分布パ
ターンは一致していた。また，地上観測（最深積雪）との
比較からも，GMS の可視データから積雪の有無につ
いての推定が可能であることが分かった。

GMS で雪氷域をモニターすることの利点は，部分的
な冠雪あるいは雪の古さに関する情報を含む，ある領域

の平均的なアルベドに近い量を提供できることである。
問題点としては，積雪深が分からないこと，雲域を積雪
域に誤認する可能性があること，積雪の有無を判定する
場合のしきい値の設定に地域的な特性を考慮する必要が
あることなどがある。このうち，積雪深については測定
の原理的な問題であるため対処できないが，他のもの
については，積雪状態を含めた地表面のアルベドの年変化
のデータを整備して対処したい。

日本気象学会誌 気象集誌

第 II 輯 第 67 卷 第 5 号 1989 年 10 月

U.C. Mohanty・K.J. Ramesh・S.K. Dash: FGGE 冬期における熱帯循環のエネルギー変換

多田一正: 日豪全球スペクトルモデルによる数値予報比較

梶川正弘: 初期雪片の落下運動の観測 第 2 部: 落下速度の変動について

E.A. Smith・A. Mugnai: 降水をとまなう雲を通しての多周波数マイクロ波の宇宙への放射伝達

第 3 部: 大きな氷粒子の影響

坪木和久・藤吉康志・若濱五郎: 陸風の構造とその前線における降水の強化

矢野順一・西 憲敬: NOAA・OLR データで見た熱帯大気の時空間変動の階層性・自己相似性

山崎信雄・村上勝人: 西太平洋における短周期熱帯擾乱の季節内振幅変動

米谷俊彦・大滝英治: 水田上の接地境界層における炭酸ガスと水蒸気の乱流輸送過程

北村康夫・廣田 勇: レーゾンゾンデ観測に基づく下部成層圏小規模擾乱の解析

花輪公雄・吉川泰志・渡邊朝生: 西部北太平洋の海面水温アノマリと ENSO イベントに関する

冬期の海面風応力ベクトルの合成図解析 Part II. ENSO イベントに対する解析

浅野正二・塩原匡貴: 対流圏エアロゾルの放射効果の航空機観測 第 I 部 放射収支の観測結果

宮崎保彦: 冬季の熱帯の対流活動と日本の天候

小川 浩・田中正之・中島映至: 天空光強度における偏光の影響の補正法

山崎孝治・岡田菊夫・岩坂泰信: 南極上部対流圏のエアロゾルはどこから来たのか?

1983年1月のケース・スタディ

瀬上哲秀・栗原和夫・中村 一・上野 充・高野 功: 日本域モデルによるメソ・スケール現象の数値予報

要報と質疑

小林文明・菊地勝弘: 1986年9月23日北海道北村で発生したマイクロバースト

高橋正明: 2次元対流モデルを使った梅雨前線に伴う下層ジェットの数値シミュレーション